原発と宗教

新しい生き方を目指して

司会：堀江宗正

島田進・大澤真幸・渡邊太

座談会

特集 '3・11後を拓く'

このように3・11後には、宗教者ではなくても、利他行動、祈り、絆、絆、深い関係の重要性を再認識するに至った人々がいる。彼らは、広い意味での宗教性、スピリチュアリティを知る人として接している。

3・11後、一年が経過したが、日本の宗教は起こっている事柄の意義を、海外の事例等を学んでもらしながら振り返り、有望な時代を示している。環太平洋地域における地震活動の活発化、アジアの経済成長を都市化による人口の増大、原発の拡大など、我々の時代である。

展望は明るくないかもしれない。だが、大きな悲しみと、きわめて困難な課題に直面しており、新たな可能性を探求するという姿勢が3・11後の基調をなしてきている。この特集が、「3・11後を拓く」と題されているのは、そのような意味を込めたものだ。

「文責：現代宗教2013編集委員会」
原発の問題は、核の技術が先進国で発展してきた結果、そして、その利害関係が複雑であることを示しています。三つの方針があると考えられます。一つは、安全な原発を導入し、二つは、原子力の代替を検討し、三つは、原子力の利用を抑制することです。それぞれの方針は、異なる視点から考えられ、社会的影響も大きく異なります。

原発の問題は、核の技術が先進国で発展してきた結果、そして、その利害関係が複雑であることを示しています。三つの方針があると考えられます。一つは、安全な原発を導入し、二つは、原子力の代替を検討し、三つは、原子力の利用を抑制することです。それぞれの方針は、異なる視点から考えられ、社会的影響も大きく異なります。

原発の問題は、核の技術が先進国で発展してきた結果、そして、その利害関係が複雑であることを示しています。三つの方針があると考えられます。一つは、安全な原発を導入し、二つは、原子力の代替を検討し、三つは、原子力の利用を抑制することです。それぞれの方針は、異なる視点から考えられ、社会的影響も大きく異なります。
原発と宗教

大貫喜幸氏

このページのテキストは日本語です。